

平成27年度会務・会計報告

平成27年度幹事長報告

平成27年度日本弁理士クラブ幹事長
西島孝喜

1. はじめに

平成27年度の日本弁理士クラブは、弁理士会の活動を支援すること及び日本弁理士クラブの一体感を強める意識を共有してそのプレゼンスを高めることを念頭において活動いたしました。

2. 組織

各構成会派からそれぞれ人選していただいて組織した幹事会、委員会、及び日本弁理士会会長経験者の方々の中で各構成会派から選出していただいて構成された常任相談役会及び日本弁理士クラブ幹事長経験者からなる相談役会を組織して運営いたしました。

3. 運営

定時総会を平成27年3月26日と11月26日の2回開催いたしました。幹事会を毎月1回(8月、12月を除く)開催いたしました。幹事会の引き継ぎのための正副幹事長会を平成26年12月25日(前年度正副幹事長会と合同)及び平成27年12月2日(次年度正副幹事長会と合同)を行いました。

相談役会は平成27年3月23日及び11月24日に開催いたしました。

4. 委員会

活動内容(諮問事項)は以下の通りです。

(1) 政策委員会

①弁理士会等から求められる各種テーマについての意見、要望の取りまとめ

②弁理士会等に対する意見、要望のとりまとめ

③弁理士とはなにか、どうあるべきか、弁理士会とはなにか、どうあるべきか、を踏まえて、日弁とはなにか、どうあるべきか、の検討をいたしました。

(2) 協議委員会(選挙対策委員会)

平成28年度弁理士会役員選挙に対応し、日弁推薦候補者の全員無投票当選を果たしました。

(3) 規約委員会

それぞれの構成会派が受け入れることができる合理性のある日弁推薦候補者選定手順を明確化し、日弁の現状と整合した日弁規約の改訂を行う予定でしたが幹事会で議論しメモを残すこととしたため規約委員会の活動はありませんでした。

(4) 研修委員会

特定侵害訴訟代理業務試験対策研修会の企画・立案し実行いたしました。

(5) 会報委員会

ホームページ委員会と連携して会報の発行を行いました。

(6) ホームページ委員会

日弁ホームページの管理・更新を行いました。

(7) 実務問題検討委員会

なぜ日本の生命線である知財制度が低迷しているのかという素朴な疑問からユーザーの観点にたつて日本の知財制度を全体的に検討する実務問題検討委員会を設けました。熱い議論が戦わされ、報告書が作成されました。

5. 行事

旅行会を平成27年6月6日～7日松山(道後温泉)で行いました。これに合わせてゴルフ大会を6月7日

にエリエールゴルフクラブ松山で開催しました。日弁サマーパーティを平成27年8月28日に「六本木ヒルズクラブ」で行いました。

特定侵害訴訟代理業務試験対策研修会を過去問解析講座として平成27年7月8日～8月5日で行い、模擬試験を平成27年8月27日～9月30日で行いました。

ボウリング大会を平成27年12月8日に東京ポートボウルで行いました。

役員選挙当選祝賀会11月26日に東海大学校友会館で行いました。テニス大会を平成28年1月23日に品川プリンスコートで行いました。

6. 最後に

弁理士会を取り巻く情勢は、様々な観点で多様にかつ急速に変動しております。第1に国際的な状況変化があります。グローバルDシエ、TPP、PLT等に基づく制度改正が、目白押しになっております。

グローバルDシエの議論の現状を分析するとその行く末は世界統一特許庁設立へ向かって時間の歯車動き始めたことを認識せざるを得ません。

このことは日本特許庁の存亡にかかる根本的な問題であることを認識する必要があると思います。

日本の知財制度の現状を見ると、グローバルDシエの議論を進めている五大特許庁のなかで、特許出願数の減少傾向が顕著なのは日本特許庁だけです。

このことの1つには日本の知財のユーザーが知財戦略をグローバルな戦略に転換しているという観測があります。したがって、弁理士はこのユーザーの戦略転換に対して敏感に反応して、ユーザーの知財世界戦略を一体的に支援できる体制を構築する必要があります。

このことがユーザーから求められている弁理士の使命であることを認識する必要があると思います。

ご承知のように日本の状況は国土小国、資源小国、老人大国、人口減少があります。一方で、日本人は、緻密性、実直性、誠実性という日本人の特徴を重ね合わせると、日本が今後、グローバル化が急速進行する世界で生き残るには、頭を使うしかない、すなわち、日本が世界共通の知的財産保護制度を活用し、

知財活動を活性化し、産業復興を図り、日本再興を図るしかないと考えます。日本の劇的な戦後復興が物語るように、かつて第2次大戦戦勝国を打ち負かしたように知財戦争に打ち勝つしか道はない、と思います。当然ですが、知財制度の活性化には弁理士が中核となって活動することが必須です。

ところでご承知のように3年前、米国がA I Aによって先発主義から他の国に合わせて先願主義に転換してきました。明らかに米国は、世界統一特許庁の座を狙っています。

個人的な感想ですが、USPTOに比べて、日本の特許庁は緻密で、正確です。日本の特許庁の審査は世界的にみて質が高く、一貫性があると考えます。世界統一特許庁としては米国特許庁よりも、日本の特許庁が相応しいと考えます。そのために弁理士会は日本国特許庁が世界統一特許庁を担っていただけるように協力すべきであると考えます。

しかし、一方で日本の知財制度は特に米国の制度に比べるとユーザーに対して期限徒過、あるいは特許の訂正等において非常に冷たいところがあります。

冷酷な取り扱いを受けたユーザーは、特許庁の対応に失望し、日本の特許庁及び知財制度に嫌悪感を抱くことは間違いありません。しかし、日本特許庁が世界統一特許庁を目指すためには、まず第1に、ユーザーに対し世界一優しい寛容な制度を構築することが必要です。

このためには、弁理士会は特許庁と一体となり特許法第1条に掲げてある「発明の保護」の真の実現のために先頭に立って活動すべきであると考えます。

そのためには、日本の知財制度をユーザーのからの信頼を十分に得られる真のユーザーフレンドリーな制度に修正していく必要があります。

第2に、弁理士を取り巻く国内的な状況変化があります。すなわち、この10年間で弁理士登録者数が2倍を超える勢いで増加し、11000人の数の弁理士登録者がいます。

弁理士には、他士業にはできない現場において発明の発掘を担うという基本的使命があると思います。伊丹会長のもとで弁理士キャラバンが立ち上がり、実を結びつつあるところであると伺っておりま

すが、正にこのことが弁理士の発明発掘の使命を全うするために必要なものであり、弁理士の使命の原点であると考えます。このような意識を持って弁理士の原点に戻れば、仕事は枯渇することはないと考えます。

日本弁理士会が上記の議論の和の中に入り中軸と

なって活動できる体制構築に向けて日本弁理士クラブは日本弁理士会を一丸となって支持していくことが必要であると考えます。

平成27年度 日本弁理士クラブ 政策委員会活動報告

政策委員長 杉村 純子

平成27年度の日本弁理士クラブ政策委員会の活動を以下のとおりご報告いたします。

1. 委員会の構成

平成27年度日本弁理士クラブ政策委員会（以下、「政策委員会」）の構成は、以下の通りです。なお、幹事会での政策委員会のご担当は、菅原峻一副幹事長（稲門）です。

委員長	杉村 純子（稲門）
副委員長	榎本 英俊（稲門）
	金本 哲男（南甲）
	篠原 淳司（無名）
	林 篤史（P A）
	岩本 康隆（春秋）
委員	石橋 良規（南甲）
	河野 誠（南甲）
	高梨 範夫（P A（3月まで））
	上山 浩（P A（4月より））
	堀籠 佳典（P A）
	竹田 淳（春秋）
	榛葉 貴宏（春秋）
	鈴木 一永（無名）
	竹山 尚治（無名）
	角田 朗（稲門）
	倉持 誠（稲門）

2. 諮問事項

平成27年度の政策委員会への諮問事項は以下の通りです。

- (1) 弁理士会から求められる各種テーマについての意見・要望のとりまとめ
- (2) 弁理士会等に対する意見・要望のとりまとめ
- (3) 弁理士とはなにか、どうあるべきか、弁理士会とはなにか、どうあるべきか、を踏まえて、日弁とはなにか、どうあるべきか、の検討

3. 活動報告

- ・第1回委員会（平成27年1月27日）
- ・第2回委員会（平成27年2月5日）
- ・第3回委員会（平成27年2月17日）
- ・第4回委員会（平成27年3月17日）
- ・第5回委員会（平成27年4月21日）
- ・第6回委員会（平成27年5月19日）
- ・第7回委員会（平成27年6月16日）
- ・第8回委員会（平成27年8月18日）
- ・第9回委員会（平成27年9月14日）
- ・第10回委員会（平成27年10月20日）
- ・第11回委員会（平成27年11月25日）
- ・第12回委員会（平成27年12月15日）

4. 委員会報告

平成27年11月発行の「日弁N o. 39号」に、平成27年度の第1回委員会から第8回委員会までの委員会中間報告を申し上げましたので、本会誌におきましては、その後の第9回から第12回までの委員会についてご報告申し上げます。

(1) 第9回委員会

主として、「弁理士とはどうあるべきか」等について以下の資料を基に、弁理士を取り巻く環境の変化の一端に触れながら、忌憚のない意見交換を行いました。

現在の知財行政の現状を理解するために、資料として、特許庁の「世界最速・最高品質の特許審査の実現に向けた取組」のPP資料、アメリカ合衆国特許規則連邦規則法典の§ 1.17 特許出願及び再審査の処理手数料及び§ 1.137 放棄された出願、終結若しくは限定された再審査手続又は消滅した特許の回復についての資料（37 CFR 1.17, 1.137 published on 2014-07、37 CFR 1.17, 1.137 published on 2015-05、37 CFR日本語(2013年施行)）、特許庁の「特許法条約（P L T）との整合に向けた方式的要件の緩和について」の資料、特許庁の「期間徒過後の救済規定に係るガイドライン」（平成27年4月1日改訂版）資料が配布されました。

PLTを含め、グローバルドシエ、e-PCT等のグロ

パールの環境の変化に伴い、今後の弁理士制度そのもののあり方について考えるよい機会となったものと思います。また今後も継続的な検討が必要であると考えます。

(2) 第10回委員会及び第11回委員会

①「次年度の伊丹政権のサポート」等について、活発な意見が提案され検討がおこなわれました（以下、意見の抜粋）。

- ・過去数年の事業計画と事業報告とをチェックし、どのような政策が行われ、どのような政策が行われていないかを評価し、その評価結果に基づいて、どのような政策をすればよいかを検討してはどうか。

- ・弁理士会の活動が、外部の施策の後追いのようにならないためにも、弁理士会執行部に対し、有用な情報提供をすることを強化する。

- ・第4次産業革命に対応し、外部団体では、人工知能などの保護の在り方について検討について問題意識があるが、弁理士会には、検討組織がないので、早急に対応して、弁理士会から議題を提案できるようにすべきである（注：平成28年度現在は弁理士会内での検討も進んでいることを付記する）。

- ・弁理士執行部から日弁に対して意見募集する期間が短かすぎるので、意見募集する内容を予め会派に説明してもらいたい。これにより、十分な議論ができ、弁理士会執行部も、よりよい施策の実施ができるものと思う。

- ・政策はタイミングが重要である。タイミングを逃したあとは、その政策を実行することが困難となる場合が多い。情報を常に収集し、前段階から関係者とつながる必要がある。

- ・弁理士会執行部と日本弁理士クラブとが意見交換をできる場を今後は増加させてはいかかがか。

②また、今後の日本弁理士クラブの行事等の見直しについて、活発な意見交換がなされた。特に、政策委員会内の若手の先生から多数の意見が提案されました（以下、意見の抜粋）。

- ・現在、付記弁理士試験を受験している弁理士の数が減少しており、日本弁理士クラブが毎年行って

いる付記弁理士試験対策研修受講者も減少しているため、次年度も当該研修を続けるべきかどうかについて検討する必要がある。

- ・付記弁理士試験対策研修の代わりに、実務に関する研修を充実させて実施してはいかかがか。実務に関する研修をすることで、日弁組織内の若手会員も日弁の行事に参加しやすくなる契機となる。但し、現在は、日弁は認定外部機関ではないので、このような実務研修を2年間して、認定外部機関となる準備を開始する必要がある。

- ・HPを見やすくリニューアルしてはいかかがか。タイムリーな情報が見やすいようにリニューアルする必要がある（注：平成28年度現在は、リニューアル済）。

- ・毎年六本木ヒルズで実施しているサマーパーティーの場所を、次年度は別の場所で開催したほうが目新しいので、若手会員も参加してみようと思うインセンティブがあがるのではないかと。

(3) 第12回委員会

第12回委員会では、懇親会を兼ねて1年間の総括を行いました。

平成27年度は、伊丹勝先生が日本弁理士会会長1年目の年であり、伊丹執行部をサポートすべく、多岐にわたる議題について積極的な議論を展開し、幹事会に随時フィードバックするとともに、幹事長とともに直接、弁理士会執行部へ具申してまいりました。

経済の活性化を通じた地方創生のための中小企業における知財活用のあり方と弁理士の役割等を含め、弁理士を取り巻くビジネス環境の変化に対応して、今後の弁理士のあり方について継続した議論が必要であると考えます。

5. 最後に

政策委員会の各先生、そして各会派の政策関係者の先生のご協力もあり、1年間活動することができました。この紙面をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

以上



平成27年度 選挙対策委員会 (協議委員会) 報告

委員長 榊 澤 聡

1. 開催回数

選挙対策委員会は、早い時期に選挙がないことが判明し、選挙態勢を整えつつも選挙対応が不要なため、1回のみで開催となった。協議委員会については、例年通り。

協議委員会	5回
選挙対策委員会	1回

2. 委員会の構成

委員長	榊 澤 聡 (南甲)
副委員長	広瀬 文彦 (南甲)
同	渡邊 伸一 (P A)
同	出野 知 (春秋)
同	亀崎 伸宏 (無名)
同	細田 浩一 (稲門)
委員	藤沢昭太郎、服部 秀一 (南甲)
	網野 誠彦、伊藤 隆治 (P A)
	藺田新太郎、齋藤 学 (春秋)
	鶴目 朋之、中 大介 (無名)
	浅田 信二 (稲門)

3. 審議結果

1) 副会長候補として、下記の会員の推薦を決定した。

09616	本多 敬子 (P A)
09638	金本 哲男 (南甲)
10124	高橋 俊一 (無名)
11472	須藤 浩 (南甲)
12388	大澤 豊 (春秋)

2) 常議員候補者として、下記の会員の推薦を決定した。

①関東選挙区

08508	伊藤 高英 (春秋)
08739	水野 勝文 (無名)

11484	高橋 雅和 (P A)
11901	山崎 一夫 (春秋)
12398	須藤 晃伸 (春秋)
12406	三上 敬史 (春秋)
12509	佐藤玲太郎 (P A)
12526	貝塚 亮平 (稲門)
12961	小野 暁子 (P A)
13555	谷崎 政剛 (P A)
13782	香坂 薫 (無名)
16143	赤堀 孝 (南甲)
16748	林 裕己 (南甲)
17789	山田 一範 (南甲)

②東海選挙区

10603	田中 敏博 (P A)
10819	三浦 高広 (南甲)

③北陸選挙区

09706	吉井 雅栄 (南甲)
-------	------------

3) 監事候補者として、次の会員の推薦を決定した。

07791	井上 義雄 (P A)
07798	千葉 太一 (無名)
11426	五十嵐貞喜 (春秋)

(役員種別、地区ごとに弁理士登録番号順、括弧内は所属会派)

4. 選挙の結果

副会長、常議員および監事選挙
すべて定数で、全員無投票当選

5. 当選者祝賀会

11月26日
東海大学校友会館 (幹事会主催)

6. 補足説明

また、すべての選挙で候補者が定数であり、無投票で全員当選を果たした。

本年度の選挙において、当選に向けて多大なご努力、ご協力を頂いた日弁幹事長、日弁政策委員長、日弁協議委員をはじめ各位に対し改めて御礼申し上げます。

平成27年度 日本弁理士クラブ 研修委員会報告

研修委員長 中 大 介

平成27年度研修委員会につきまして、以下の通り
ご報告致します。

1. 開催回数

研修委員会 1回

研修会 9回

2. 委員会の構成

委員長 中 大介（無名）

委員 中野 圭二（P A）

西田 憲孝（P A）

水崎 慎（P A）

宮本 陽子（P A）

三田 康成（春秋）

米屋 崇（春秋）

藤沢昭太郎（南甲）

山田 一範（南甲）

本間 博行（無名）

志摩美裕貴（稲門）

浅田 信二（稲門）

担当副幹事長 津田 理（南甲）

3. 研修内容

(1) 特定侵害訴訟代理業務試験対策研修

特定侵害訴訟代理業務試験対策研修として、以下の
研修会を行いました。

<過去問解析講座>

日 程：2015年7月8日、7月15日、7月22日、7月29日、
8月5日

会 場：弁理士会館

講 師：弁護士・弁理士 石神恒太郎先生

（青和特許法律事務所）

内 容：

第1回 ①特定侵害訴訟代理業務試験のポイント（知
財侵害訴訟の要件事実について）

②平成23年度第1問解説

第2回 平成24年度第1問、第2問解説

第3回 平成25年度第1問、第2問解説

第4回 平成26年度第1問、第2問解説

第5回 ①平成23年度第2問解説

②過去問の傾向と試験対策

受講者数：28名（通学：19名、通信9名）

<模擬試験>

日 程：2015年8月27日、9月10日、9月17日、9月
30日

会 場：弁理士会館

講 師：弁護士・弁理士 柳下彰彦先生

（弁護士法人内田・鮫島法律事務所）

内 容：

第1回 [模試] 特許法関連模擬試験1問

第2回 [解説] 第1回の模擬試験結果講評等

第3回 [模試] 商標・不正競争防止法関連模擬試験
1問

第4回 [解説] 第3回の模擬試験結果講評等

平成25年度より、講師の先生のご協力をいただき、
受講生からの御要望にお応えして模擬試験の答案に
ついて採点して返却しています。

受講者数：19名

以上

会報委員会報告

委員長 中村 希望

平成27年度会報委員会につきまして、下記の通りご報告申し上げます。

1. 委員の構成

委員長	中村 希望（無名）
委員	工藤 貴宏（無名）
	松宮 尋統（PA）
	齋藤 誠（PA）
	石井 茂樹（南甲）
	松田 次郎（南甲）
	植田 晋一（稲門）
	高橋 伸也（稲門）
	井上 正（春秋）
	加曾利 正典（春秋）

2. 活動内容

会報「日弁」第39号の発行

発行部数：全2, 807部

内訳 PA会：975部

稲門弁理士クラブ：220部

春秋会：895部

南甲弁理士クラブ：430部

無名会：275部

発送 平成27年10月に印刷手配を依頼し、順次各会派に発送

3. 会合

平成27年7月8日に開催し、編集工程の説明、執筆依頼の分担の割り振りを行った。また、平成27年10月30日に開催し、発行された日弁誌を概観した。

以上

ホームページ委員会報告

委員長 下田 俊明

平成27年度のホームページ委員会の構成及び活動内容等について、次の通りご報告いたします。

(1) 委員の構成

委員長	下田 俊明（PA）
委員	中野 寛也（稲門）
	山崎 貴明（春秋）
	山田 一範（南甲）
	山田 勉（無名）
	帯包 浩司（PA）
担当副幹事長	坂本 智弘（PA）

(2) 会合及び審議内容

開催日時：平成27年4月22日

場所：日本弁理士クラブ幹事長の事務所の会議室

議事：1. 年間スケジュールの確認

2. ホームページ用サーバ費用の支払方法

3. 日弁メルマガの発行方針

(3) ホームページ委員会の活動報告

①日弁メルマガの発行

日弁メルマガの主な内容は主に以下の通り

- ・ 幹事長退任挨拶
- ・ 日弁の活動報告、各種企画の紹介
- ・ 日本弁理士クラブ及び各会派で主催の研修会の案内
- ・ 各会派の紹介

②ホームページの更新・維持・管理

ホームページの更新の内容は主に以下の通り

- ・ 幹事長就任挨拶のホームページへの掲載
- ・ 日弁の活動報告、各種企画の紹介
- ・ 日本弁理士クラブ及び各会派で主催の研修会の案内
- ・ 日弁会報（第39号）の掲載

平成27年度会合行事記録

平成27年度副幹事長 磯 貝 克 臣

月	総会・相談役会・行事	幹事会	委員会	その他
1月		1/15 第1回	1/27 第1回政策	
2月		2/12 第2回	2/ 5 第2回政策 2/17 第3回政策	
3月	3/23 第1回相談役会 3/26 第1回定時総会	3/10 第3回	3/17 第4回政策	3/13 東海協議会 役員慰労激励会 3/13 西日本弁理士クラブ 役員慰労激励会
4月		4/14 第4回	4/21 第5回政策 4/22 第1回研修 4/22 第1回会報 4/22 第1回ホームページ	
5月		5/12 第5回	5/ 7 第1回実務問題検討 5/19 第6回政策 5/19 第2回研修	
6月	6/ 6- 7 旅行会 6/ 7 ゴルフ大会	6/ 9 第6回	6/ 8 第1回協議 6/15 第2回実務問題検討 6/16 第7回政策 6/25 第2回協議	
7月	7/ 8 特定侵害訴訟代理業務試験 過去問講座（第1回） 7/15 特定侵害訴訟代理業務試験 過去問講座（第2回） 7/22 特定侵害訴訟代理業務試験 過去問講座（第3回） 7/29 特定侵害訴訟代理業務試験 過去問講座（第4回）	7/13 第7回(拡大)	7/ 8 第2回会報 7/14 第3回研修 7/28 第3回協議	7/ 4- 5 西日本弁理士クラブ 旅行会
8月	8/ 5 特定侵害訴訟代理業務試験 過去問講座（第5回） 8/27 特定侵害訴訟代理業務試験 対策模試（第1回） 8/28 日弁サマーパーティー		8/18 第8回政策	
9月	9/10 特定侵害訴訟代理業務試験 対策模試（第2回） 9/17 特定侵害訴訟代理業務試験 対策模試（第3回） 9/30 特定侵害訴訟代理業務試験 対策模試（第4回）	9/ 8 第8回	9/14 第9回政策 9/15 第4回協議(拡大) 9/18 第5回協議	9/ 5- 6 弁理士連合クラブ 旅行会
10月		10/ 6 第9回 10/28 第10回	10/20 第10回政策 10/30 第3回会報	
11月	11/24 第2回相談役会 11/26 第2回定時総会 11/26 役員当選祝賀会	11/10 第11回	11/ 9 第3回実務問題検討 11/25 第11回政策	11/ 6 西日本弁理士クラブ 創立60周年記念祝賀会
12月	12/ 8 ボウリング大会	12/21 第12回	12/22 第4回研修 12/22 第2回ホームページ	



平成27年度 総会承認事項

副幹事長 磯貝克臣

第1回総会

日時：平成27年 3月26日（木）18：00～19：00

会場：弁理士会館地下1階 第A－B会議室

- (1) 平成26年度日弁事業報告の承認を求める件
菅原峻一副幹事長から配布資料に基づいて事業報告の説明がなされ、承認された。
- (2) 平成26年度日弁決算報告の承認を求める件
坂本智弘副幹事長から配布資料に基づいて会計報告の説明がなされ、承認された。
- (3) 平成27年度日弁事業計画の承認を求める件
西島孝喜幹事長から配布資料に基づいて事業報告の説明がなされ、承認された。
- (4) 平成27年度日弁予算の承認を求める件
坂本智弘副幹事長から配布資料に基づいて予算案の説明がなされ、承認された。
- (5) 平成27年度日弁予算の予備費の取り崩しに関し幹事会への一任についての承認を求める件
西島孝喜幹事長から趣旨の説明がなされ、承認された。
- (6) 平成28年度日本弁理士会（関東支部を含む）役員推薦の件
役員推薦について、西島孝喜幹事長から、幹事会への一任を求める旨が説明され、承認された。

第2回総会

日時：平成27年11月26日（木）17：40～18：10

会場：弁理士会館地下1階 第A－B会議室

- (1) 平成28年度日本弁理士クラブ幹事長選任の件
杉村純子会員を選任することについて、賛成多数により承認された。
- (2) 平成28年度日本弁理士クラブ政策委員長選任の件
鈴木一永会員を選任することについて、賛成多数により承認された。
- (3) 平成28年度日本弁理士クラブ副幹事長、幹事及び会計監事選任の件
平成28年度幹事長に一任することについて、賛成多数により承認された。

平成27年度最終会計報告

平成27年度会計担当副幹事長 坂本智弘

平成28年度第1回日弁総会において平成27年度会計報告が承認されましたので、以下にご報告申し上げます。

下記表の通り、次年度（平成28年度）への繰越金となる予備費（7,909,731）は、前年度（平成26年度）からの繰越金（8,524,729）に比べ、614,998円の減少となりました。協議・選対費用、特定侵害訴訟代理業務試験対策の研修会開催に係る収支差額の減少、実務問題検討委員会の新設等の原因によりますが、引き続き活動資金を有効に活用していくことが重要と考えます。関係各位のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

(単位:円)

収入の部	実績額	予算額
前年度会計からの繰越金	8,524,729	(8,524,729)
各クラブ分担金	2,500,000	(2,500,000)
利息	1,066	0
協議・選対委員会からの入金	1,688,399	
その他	8,210	0
合計	12,722,404	(11,024,729)

支出の部	実績額	予算額
例会・総会	34,560	(200,000)
幹事会	275,734	(400,000)
会報委員会	1,064,009	(1,000,000)
協議・選対委員会	16,048	(1,500,000)
政策委員会	59,511	(300,000)
H P 委員会	163,540	(200,000)
研修委員会	161,558	(200,000)
日弁五派交流会 (日弁サマーパーティ)	351,192	(400,000)
相談役会	159	(200,000)
旅行会	797,388	(900,000)
旅行会ゴルフ大会補助	0	(50,000)
ボウリング大会補助	86,890	(50,000)
テニス大会補助	50,000	(50,000)
庶務	9,793	(150,000)
慶弔費	68,291	(150,000)
渉外・交通	390,000	(500,000)
幹事長渉外費	0	(400,000)
実務問題検討委員会	84,000	(100,000)
規約委員会	0	(200,000)
次年度活動準備費	200,000	(200,000)
予備費	7,909,731	(3,874,729)
合計	12,722,404	(11,024,729)

平成27年度 日弁ボウリング大会 報告

幹事 竹 山 尚 治

第38回となる平成27年度日本弁理士クラブボウリング大会は、平成27年12月8日に行われました。今年の会場は、例年使用されていた田町ハイレーンが閉館となったため、旧田町ハイレーンにほど近い、東京ポートボールとなりました。

大会のルールは、参加者全員が3ゲームずつ投げたその合計で、各会派別の団体戦及び個人戦としてスコアを競うというものです。

団体戦では、昨年の優勝チームである春秋会を押さえ、P A会の優勝となりました。1位から5位までの各チームのスコア差はいずれも100ピン以上あるため、2位以下の会派の次年度の奮起が期待されます。他方、個人戦では2位、3位のP A会の篠田卓宏会員、三上結会員を押さえ、春秋会の樋口和博会員が優勝されました。また、レディース戦も春秋会の玉利房枝会員が優勝され、男女共に春秋会の優勝という事になりました。

第39回大会となる本年度も秋口になりましたら参加希望者を各会派別に募集致します。会場は高田馬場駅前にある高田馬場グラウンドボウルになる予定ですので、多くの会員の皆様の参加をお願いする次第です。

■団体戦（上位6名の合計）

優勝	P A	2769
2位	春秋	2640
3位	無名	2460
4位	南甲	2377
5位	稲門	1791

■個人戦

(1) 順位賞

優勝	樋口和博	春秋	504
2位	篠田卓宏	P A	499
3位	三上 結	P A	486

4位	伊藤高英	春秋	464
5位	松井伸一	P A	458
6位	磯田志郎	春秋	458
7位	中尾俊輔	春秋	455
8位	田浦弘達	P A	447
9位	渡辺伸一	P A	443
10位	津田 理	南甲	439
15位	水口崇敏	P A	430
20位	松田次郎	南甲	406
25位	竹山尚治	無名	386
30位	河野生吾	南甲	366
35位	窪田稚之	稲門	352
38位	楠 和也	南甲	333
40位	岩田 啓	稲門	326
45位	久松洋輔	無名	281
B B	杉村純子	稲門	243

(2) レディース部門

優勝	玉利房枝	春秋	371
2位	田中祐子	P A	304

(3) ハイゲーム賞

1位	中尾俊輔	春秋	199
2位	篠田卓宏	P A	187
3位	中 大介	無名	184

(4) 大波小波賞

大波賞	樺澤 聡	南甲	80
小波賞	伊藤隆治	P A	5

(敬称略)

以上